

「常用漢字(音訓・付表)」の変更について・2(案)

I 音訓について

<音訓の追加等>

- | | | |
|----|------------|---|
| 1 | 愛 (訓：え) | ※ 「愛媛」に対応するための追加，1字下げ |
| 2 | 委 (訓：ゆだねる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 3 | 育 (訓：はぐくむ) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 4 | 応 (訓：こたえる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 5 | 神 (訓：か) | ※ 「神奈川」に対応するための追加，1字下げ |
| 6 | 滑 (音：コツ) | ※ 「稽」が入るので、「滑稽」に対応するための追加 |
| 7 | 関 (訓：かかわる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 8 | 館 (訓：やかた) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 9 | 堪 (=語例追加) | ※ 音「カン」の語例として「堪能」を追加し，その備考欄に「堪能」は，「タンノウ」とも。>と注記 |
| 10 | 岐 (音：ギ) | ※ 「岐阜」に対応するための追加，1字下げ |
- | | | |
|----|-----------|--|
| 11 | 混 (訓：こむ) | ※ 「込む」との関係はどうとらえるか
→①訓「こむ」を立て，語例に「混む，混み合う，人混み」を掲げる。備考欄には「混み合う」「人混み」は，「込み合う」「人込み」とも。>と注記
②「込」の訓「こむ」はそのまま残すが，語例欄から「人込み」を削除 |
| 12 | 私 (訓：わたし) | ※ 追加するか，「わたくし」と入れ替えるか
→○訓「わたし」を追加し，訓「わたくし」はそのまま残す |
- | | | |
|----|---------------|---|
| 13 | 児 (訓：ご) | ※ 「鹿児島」に対応するための追加，1字下げし，語例欄に「稚児」を掲げる。「鹿児島」は備考欄には入れない。 |
| 14 | 滋 (音：シ) | ※ 「滋賀」に対応するための追加，1字下げ |
| 15 | 臭 (訓：におう) | ※ 「匂 (におう)」に対応するための追加 |
| 16 | 十 (=備考欄に注記) | ※ 音「ジッ」の備考欄に「ジュッ」とも。>と注記 |
| 17 | 旬 (音：シュン) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 18 | 城 (訓：き) | ※ 「茨城・宮城」に対応するための追加，1字下げ |
| 19 | 伸 (訓：のべる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 20 | 振 (訓：ふれる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 21 | 粹 (訓：いき) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 22 | 逝 (訓：いく) | ※ 「逝った (=いった)」に対応するための追加 |
| 23 | 拙 (訓：つたない) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 24 | 創 (訓：つくる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 25 | 速 (訓：はやまる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 26 | 分 (訓：いた) | ※ 「大分」に対応するための追加，1字下げ |
| 27 | 放 (訓：ほうる) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |
| 28 | 癒 (訓：いえる・いやす) | ※ 音訓の使用実態に基づいて追加 |

29 要 (訓:かなめ) ※ 追加するか
→○訓「かなめ」を追加し、語例欄には「要」を掲げる

30 良 (音:ラ) ※ 「奈良」に対応するための追加, 1字下げ

31 絡 (訓:からめる) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加

32 力 (力む=リキむ) ※ 凡例の中で, 使用できることを記述
→○<「愛」⇔「愛する」>, <「案」⇔「案じる・案ずる」>などとの関係

33 務 (訓:つとまる) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加

34 全 (訓:すべて) ※ 音訓の使用実態に基づいて追加

35 都道府県名の扱い ※ 岐阜の「阜」のように都道府県名にのみ使われる音訓に
対して, 備考欄に「岐阜県」と注記。語例欄は空欄とする
→「東京」「群馬」などは注記しないが, 「大分」などは訓
「分(いた)」の備考欄に「大分県」と注記する

<音訓の削除>

1 疲 (訓:つからす) ※ 音訓の使用実態に基づいて削除

P37 <なつける=懐ける>, P38 <おのおの=各・各々>,
P87 <ちぢらす=縮らす>, P101 <きよまる=清まる>,
P122 <ひくまる=低まる>, P138 <つからす=疲らす>,
P154 <あかるむ=明るむ>, P164 <となる=隣る>

II 付表について

<語の追加(追加字種関係)>

1 尻尾 (付表:しっぽ)	※ 音訓の使用実態に基づいて追加
2 固唾 (付表:かたず)	※ 音訓の使用実態に基づいて追加
3 鍛冶 (付表:かじ)	※ 音訓の使用実態に基づいて追加
4 弥生 (付表:やよい)	※ 音訓の使用実態に基づいて追加

<変更(現行付表関係)>

1 居士 (付表:こじ)	※ 「一言居士」を「居士」に変更
2 五月 (付表:さつき)	※ 「五月晴れ」を「五月」に変更
3 (お) 母さん (付表)	※ 「お母さん」を「(お) 母さん」に変更
4 (お) 父さん (付表)	※ 「お父さん」を「(お) 父さん」に変更
5 (お) 兄さん (付表)	※ 「兄さん」を「(お) 兄さん」に変更
6 (お) 姉さん (付表)	※ 「姉さん」を「(お) 姉さん」に変更
7 稚児 (付表:ちご)	※ 「稚児」が語例欄に入るので, 付表から削除

8 付表の扱いの変更 → 付表に挙げられている語を構成要素として使用する
ことも可能であることを明記する
(例)「河岸(かし)」を「魚河岸(うおがし)」, 「心地
(ここち)」を「居心地(いごこち)」として使う

Ⅲ 前回の漢字小委員会における意見の扱い等

<前回の意見の扱い>

- 1 韓（語例の扱い） ※ 語例の「韓国」を外し，備考欄は空欄のまま
- 2 畿（語例の扱い） ※ 語例の「畿内，近畿」はそのまま残す⇨欧（西欧）等
- 3 鎌（語例の扱い） ※ 語例の「鎌倉時代」はそのまま残す⇨弥生時代
- 4 岡（語例・備考欄） ※ 語例の「岡目八目」を外し，「おか」を1字下げ，備考欄に「岡山県」「静岡県」「福岡県」と注記
「⇨丘」は注記せず。<岡（傍）目八目，岡っ引き等>

- 5 （お）母さん，（お）父さん等の示し方（付表）
※ 付表には，
→<母さん，父さん，兄さん，姉さん>の形で示す
⇨上記Ⅱの8との関係

<漢字WGによる再検討>

- 6 音（語例変更） ※ 音「イン」の語例にある「音信不通」を「母音」に変更
備考欄の「音信不通」についての記述は削除
- 7 野良（付表：のら） ※ 「野良」を付表から削除
→「奈良県」との関係で「良」に音「ラ」を追加するので，
付表から削除し，音「ラ」の語例に「野良」を入れる。
音「ラ」については1字下げのまま

- 8 中（音：ジュウ） ※ 音訓の使用実態に基づいて追加
→語例に「心中」「世界中」を入れ，備考欄に<「心中」は，
「シンジュウ」と「シンチュウ」とで，意味が違う。>
と注記。⇨『国語関係訓令・告示集』92 ページ